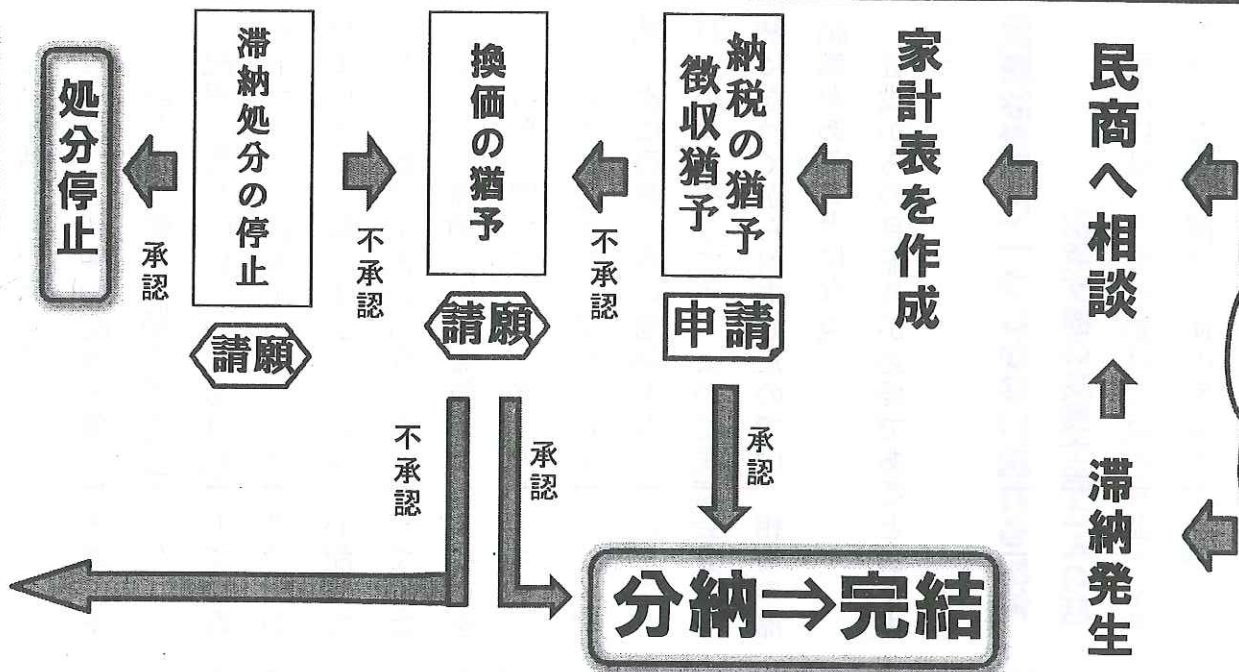


新潟民商

新潟民主商工会
新潟市中央区酒造西3丁目10-14
電話 (243) 0141
14年 9月 1日

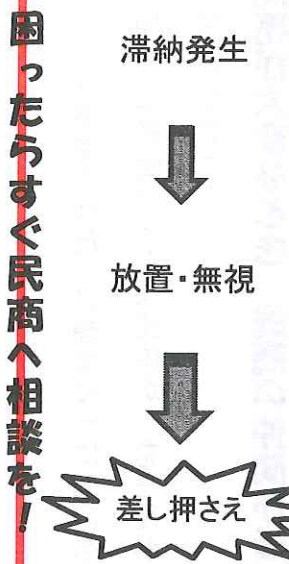
商工新聞(八月二十五日号)の一面で納税緩和措置の記事がありました。新潟民商では、納税が困難な会員に対し納税緩和措置の活用を促しています。納税緩和措置の内容と流れを紹介いたします。

納税困難



新潟民商のみんなの力を借りて再度交渉

税金が払えそうにない・滞納しているという方は、今すぐ相談をしてください。新潟民商の団結力を発揮する場です。解決するまで一緒に頑張りましょう。一人で悩んでいると最悪の場合、次のようになってしまう。



困ったらすぐ民商へ相談を!

商工フェアinにいがた出演者紹介!

八月二十五日号に掲載致しました出演者紹介で出演者名の間違いが御座いましたので訂正しお詫び申し上げます。(商工フェア実行委員会)

●新潟市出身の演歌歌手原沢みなこさんです(午前、午後の二回出演予定)ご期待下さい!



「新潟民商共済会・第三〇回記念総会」が贈る
記念行事(一般参加者)のご案内

映画「痴呆性老人の世界」上映

■とき 九月十四日(日)

(上映時刻)三時十五分〜四時四〇分

- ところ ANAクラウンフラザホテル
- 上映協力費 五〇〇円(總會参加者無料)
- 申込み 支部役員もしくは民商事務局
- ◇羽田澄子監督

☆キネマ旬報文化映画部門第1位(一九八五年度)

☆毎日映画コンクール教育文化映画賞

☆日本映画ペンクラブ・ノンシアトリカル部門第1位

*いま、高齢化社会の中で認知症が社会問題化し、どの家庭でも、そして誰もが発症の不安を抱えています。三〇年前、まだ認知症という呼び名がなかった時代、「痴呆」「ボケ」老人と呼ばれ、対応が手さぐりの状況でした。その時に、痴呆とは何か。痴呆性老人とはどのような人びとで、いかに対処すべきか。その問題に理解を深め、直面している人々の助けとなることを願って製作された作品です。上映が始まると各地で高い評価を受けました。三〇年前の作品でありながら現代が抱える認知症・介護問題を考えるヒントを与えてくれることでしょう。

第1回 民商学校で役員が民商を語る！民商の活動の方向が分かった！支部で頑張る

二四日開催された「民商学校」に四〇名が参加し、「民商はどんな団体か」を二役が話し交流しました。

商売が大変なとき、民商の仲間がそばについてくれたありがとう

亀田支部の松本里志さんの話

青年部の対象は四十歳までの会員がとなります。年々卒業していく人数は決まっております。組織を維持していくのはなかなか大変であるということ。青年部を卒業した後には、支部の役員として活動していく方は多くないと話していました。

二点目は、新聞の配達・集金は大事であると話し、体験談を踏まえて話でした。

配達・集金時に、いつもは駐車していないトラック（仕事があればトラックで出かけている）が数日止まっており、心配して尋ねると仕事がまわらなくなっていたケースも。滞納がある会員さんの支払いを止める順を聞いてみると多くのケースが、まずは国保を滞納、続いて住宅ローンの滞納、次に民商会費の滞納となっていることが分かったそうです。よって民商会費が滞納になってから対応したのでは、相当の滞納額があることになる。

普段からの目配りが必要であると訴えました。

民商は世界に「一つしかない誇れる団体

松浜支部の高橋士郎さんの話

民商には、民商運動は会員の利益・幸せだけでなく、国民全体の幸福とつながっているという素晴らしい理念がある。税だけではなく、その時々さまざまな要求を団結して勝ち取るために戦っている。

士郎さんが民商に入ったきっかけは税金対策。それから沼垂↓石山↓松浜と民商歴は三十年以上。民商を立ち上げた人のもとで、副支部長として活動してきた。嫌になることがあっても頭を切り替え、楽しく運動しているそうです。ある人の、「役員は砂漠の中のダイヤモンド（宝）である」という

言葉がとても印象的だったとの事。「民商五十年の歩み」の本が宝物で、今日も民商学校で学んでくると人に話してきたという士郎さん。民商が大好きなんだという事がひしひしと伝わってきました。

今回、民商を知りたいと初めて参加してくれた方がいらっしやいましたが、学ぶことが大事。今後も参加者が増え、民商大好きな人が増えることを願います。

民商の闘いの歴史！すごい歴史に感動

高橋会長の民商の歴史のはなし

終戦の年のつらい思い出があった、戦争は絶対にしてはならないというのが国民の願い。日本が安保条約を結んだとき、国民の大きな反対運動が巻き起こったのは、国民の中に戦争の記憶が生々しく残っていたからです。民商も六〇年安保の闘いに立ち上がりました。ここで国民が学んだのは「私たちの運動で政治は変えられる」という実感でした。そのあと全国で税務署・警察が一体になった新潟民商など民商弾圧が開始されました。民商・全商連は裁判闘争含め闘い、納税者の権利を認めさせる貴重な成果を上げました。同時にいくらか民商が正しいことを言っても、組織を大きくしなければ要求を認めさせられないと、拡大運動を前進させて跳ね返してきました。参加者からは、「民商はすごい歴史なのを分かって感動しました。運動しつつ学び、学びつつ運動する」と感想が出されていました。

拡大行動と支部活動について

石山支部・細山俊夫さんの拡大の話

新潟民商では毎月出る会員の退会や新聞の減紙を止めるための働きかけを強めています。予め〇ヶ月という約束で新聞を取ってもらっていても、期限が来たらまた話に行き、引き続き新聞を読んでもらえるよう頼むなど、そういった手立てにより、新潟民商では半年以上の増勢を続けることができました。

また、支部での活動については、日頃からの会員とのコミュニケーションを、と訴えました。拡大の時だけ頼みに行くのではなく、普段から特に用がなくても話しに行くことが大切。そうして会員同士のきずなが深まっていくことで、班や支部の活動につながっていくと話しました。

